

優 秀 賞

「将来の夢」

愛知県立稲沢高等学校 農業土木科 2年
田 中 一 輝

「この道は、俺が作ったんだぞ。」

「この電柱は、俺が立てたんだ。」

私の父は、土木関係の仕事をしています。

小さい時から、父のこんな自慢話を聞いてきた私は、将来、私よりもずっと長く残り、使っている人たちが喜んでくれるような構造物を作りたいと思うようになりました。将来、父のように、子どもに自分の仕事を誇れるようになりたいと思ったからです。そのために、私は、稲沢高校の農業土木科に入学しました。

入学前は、夢の実現のために必要な資格は、一級建築士、測量士補、土木施工管理技士等の資格だと思っていました。だから、高校で取れる資格はできるだけ多く取って、将来の夢に近づけるように頑張りたいと思っていました。

高校に入学すると、いろいろな建設会社の方が学校へお話しに来て下さり、貴重な意見を聞く機会がありました。現場は国内だけでなく、海外も多く、仕事は大変だけど、すごくやりがいがある。楽しくて、今の自分では大きさが想像もできないような、一生残る物を作ることができる。物作りを通して人助けができる等、たくさんのお話を聞くことができました。

講師の方によって、やりがいや目標は、人それぞれ、違っていました。

しかし、人の生活を便利にするのに役立つ仕事をしているという意識が高く、自分の満足のためではなく、人のために頑張ると考えていらっしやるのが分かりました。これは、すごいことだと思いました。

また、長期の工事をする時には、特に海外の現場の場合は、その国、地域の人との交流を深め、仲良くなることもあるという話を聞いて、「コミュニケーション能力もないとだめだ」「周りへの配慮が、ちゃんとできるように仕事をしなくてはいけない」と思うようになりました。工事が終わると地域の人に感謝されるという話を聞くと、土木の仕事は本当にすごく誇れる仕事なのだと分かるのと同時に、資格を取るだけではなく、人として成長することも必要だと思うようになりました。ますます、土木の仕事に就きたいと思うようになりました。

土木の仕事への希望が高まるにつれ、新たに興味が湧くことも出てきました。環境や自然災害に関す

る問題です。

東日本大震災では津波により多くの命が奪われ、復興事業はなかなか進んでいないようです。多くの人が、未だに仮設住宅に住んでいます。原発事故では、いまだに故郷に帰れない人もたくさんいます。熊本の地震では、多くの建物が被害を受けたままです。ゲリラ豪雨や集中豪雨、台風等により、日本の各地で洪水や土砂崩れが発生し、多くの人の命が失われ、多くの建物や施設、農産物に被害が発生しています。

また、先日は、今後30年以内に発生が予想される南海トラフ巨大地震では、20年間で発生する長期的な被害が、日本の国家予算の14年分である1410兆円になるというニュースが流れました。

自然の前には、人は無力なのかもしれません。しかし、こんなニュースを見聞きするたびに、私の心は痛みます。

少しでも被害を少なくすることはできないのか。防災のために、土木はどんな貢献ができるのか。自分にできることは何かないのか。

そもそも、環境はどのように変わってきているのだろうか。今後、環境はどのように変化していくのだろうか。土木の構造物が環境に与える影響はあるのだろうか。環境に優しい構造物、環境を守るための構造物は、何なのだろうか。

地球温暖化が問題となり、私達を取り巻く環境が変化していく中で、たくさんのことを考えるようになりました。そして、より多くの人たちを幸せにするためには、どうしたらいいのか。土木のことだけでなく、幅広い分野のことを学び、土木の仕事に就き、社会に貢献したいと強く思うようになりました。

8月には、インターンシップがあります。土木の会社で、3日間、実際の現場を経験することができます。どのような仕事をするのか、現場の人たちはどのような目標を持って現場で働いているのか、自分の肌で感じて、将来役に立つ意見をたくさん聞いてきたいと思っています。

そして、自分らしい目標、やりがいを見つけ、将来、土木の仕事に取り組んでいきたいと考えています。

「これが、僕が作った道路だよ。」

今度は、私が胸を張って、父に話したいと思います。